

第73回計画推進評価部会

・第16回計画策定専門部会（平成27年6月9日）の意見一覧

NO	頁	項目名 プロジェクト名	委員名	意見
1	P J 編 2	策定に当たって	木村委員	「実施計画策定の主な背景」の④「多様な働き方や課題を抱える子どもたちなど」は、直接的に関連しないようなテーマがまとめられており、唐突な感じを受ける。
2	P J 編 9	PJ2医療	大久保委員 岡谷委員	県立看護専門学校の4年制導入については、大学卒の学位が取れない点や、看護師免許の取得に時間がかかるといった点で志望者のニーズに合わないのではないか。
3	P J 編 9	PJ2医療	岡谷委員	看護師の実践能力向上のためには、教育機関と病院がどのように連携してOJTのしくみを作るのかが一番重要。看護学校で実践的な教育を行うのであれば、シミュレーションセンターなどの環境をきちんと整備するのであればモデルケースとなる可能性もあるが、中途半端な形であれば無意味なものになる恐れがあるのではないか。
4	P J 編 14	PJ6産業創出	山本(亮)委員	中小企業支援については、経営的な面に偏っているので、技術的な面でも支援策を充実させる必要があるのではないか。
5	P J 編 34	PJ23都市基盤	山本(佳)委員	プロジェクト23のねらいに記載されている「老朽化するインフラへの対策や都市機能の集約化」は、今後着目が必要な重要な視点である。具体的な取組みの中で、劣化する社会資本の更新や改築・改善といった視点を考慮してほしい。
6	P J 編 39	神奈川の戦略	木村委員	(参考資料1 No. 12に関連して) 「ロボットと共生する社会の実現」については、「メイド・イン・神奈川のロボットが社会にとけ込み、基本的な人権や人間性を抑圧することなく、いのちや生活を支えるパートナーとして」とした方がよいのではないか。
7	P J 編 53	PJ14子ども・青少年(数値目標)	池本委員	「社会的養護を必要とする子どものうち、里親・ファミリーホームで養育される子どもの割合」は、海外と比較して低い状況にあるので、もう少し高い目標値を設定できないか。
8	主要編 11	Ⅲ産業・労働	山本(亮)委員	国では、公設試験研究機関の持つ知的財産に関するポリシーが企業有利にシフトしている。企業側が、県より国と仕事をした方がよいという考えに傾きかねないため、県においても、中小企業への支援や連携を進めるため、県有知的財産の維持活用が適正に行われるよう、タイムリーに見直しを行う必要があるのではないか。
9	主要編 15	Ⅳ健康・福祉	大木委員	主要施策No. 404「手話を利用しやすい環境の整備」の取組みの内容が「手話の普及などに関する施策の推進」だけになっているが、手話言語条例が施行されたことも踏まえ、取組みをより充実させる必要があるのではないか。
10		その他	山本(佳)委員	大学に入学する社会人の増加や、社会人向け大学院の充実など、大学を取り巻く状況が変化している。社会人のスキルアップのための学び直しや、高度職業人養成を支援する取組みを進めていただきたい。
11		全般	牛山部会長	デザイン版では海の写真が多用されているが、神奈川は海だけではないので全体のバランスを考慮していただきたい。